

平成30年度第2回北海道子どもの未来づくり審議会 子ども部会 議事概要

【日 時】	平成30年12月27日（木）10:00～15:00
【場 所】	赤れんが庁舎2階2号会議室
【出席者】	別添「出席者名簿」のとおり
【議 題】	別添「次第」のとおり
【議 事】	以下のとおり

(1) オリエンテーション

事務局より、日程・注意事項などの説明

(2) 開会挨拶（野村部会長）

(3) グループ討議

3グループに分かれて「私たちが考える北海道の未来」というテーマで議論

(4) 結果発表

【Aグループ】

- ・ 前は経済面と結婚観、仕事面の3つを考えたが、今回は、「子どもが少ない＝結婚している人が少ない」という点から、なぜ結婚しないかについて、経済面と結婚観から考えた。一つ目は出会いがない、二つ目は地域（考え方）の変化、三つ目は教育費と医療費がかかること。
- ・ 出会いがないことへの解決策は、行事を行うこと（特産物を使った伝統行事、有名人を呼ぶなど）。結婚を意識し過ぎずに来やすく、若者から高齢者まで様々な年齢の人が交流できることで、結婚につながる出会いが生まれるので、もっと積極的に行事を行えば良いと思った。
- ・ 地域（考え方）の変化についての解決策は、結婚談を学校などで集め、アンケートを取り、それを元に冊子やサイトで紹介する。教育費・医療費がかかることについては、地域の交流を増やす（お下がりなどで負担を減らす）こと。
- ・ 上記3点に共通する手立てとして、PRの仕方を考えた。人が集まる場所で、漫画風やカラフルにした、見やすいチラシを配布する。学校と協力して子どもが作ったチラシを公共施設に置く。ポケットティッシュや回覧板を使う。行政のホームページを見やすく興味を持ってもらいやすいようにリニューアルする。これらのことを解決すれば、経済面、結婚観、仕事面を充実させたまちとなり、少子化の解決に役に立つと思った。

【Bグループ】

- ・ 都市部、地方、共通に分けて考えた。都市部の課題は、保育所不足、保育士不足、子育て世帯への助成金や補助が少ないこと、地方の課題は、JRがなくなるなど交通の便が悪いこと、病院がないと安心して子どもを産み育てられないこと。共通の課題は、遊ぶ場所である公園が不足し、子どもと触れ合う場面の減少、近所、地域同士の助け合いが不足していること。
- ・ 解決策については、都市部では託児所をつくること、授業を創設して子どものことを勉強する機会をつくること、企業内に保育施設をつくること。地方では、ふるさと納税などでお金を集める、企業や大学を誘致すること。共通の部分では、お祭りなどを行って地域での交流を深めること。
- ・ 都市部、地方に共通した解決策は、お金を集めることと情報発信。情報発信については、行政のホームページは堅苦しかったり見づらかったりするので、リニューアルしたり、面白くしたりするほか、まちの情報をYouTubeやTwitterなど若い人が見る媒体を使ったり、有名なYouTuberとコラボしたり、首長や行政の子育て担当者がTwitterなどで情報を発信し、身近に感じられるようにすることを考えた。
- ・ 興味がない人にも広く見てもらえるものとして、駅や空港にポスターなど情報を発信できるものを設

置ることによって、全てに関して解決していけるのではないかと考えた。

【Cグループ】

- ・ どのような環境であれば、子どもが産み育てやすくなるかについて話し合い、最初に考えたことは、LINEで育児相談。市役所などに相談窓口はあるが、人に見られたくない、知り合いにはあまり話したくないという声があった。LINEであれば、忙しい人でも気軽にすぐ相談できる。相談したい相手の条件を入力・設定すると、育児経験のある人の中から選ばれて相談ができるようなシステムを作り上げると良いと思った。
- ・ 仕事をしやすい企業を作るため、子育てしやすい企業のランキングを作って表彰すること。ランキングを作れば、若い人達も来やすく、企業同士が切磋琢磨し合う。今も表彰はしているようだが、全然知らないのもっと表彰して、良い企業をPRすること。
- ・ また、子育ての現状を若い人たちに伝えること。企業で講師を招待し、セミナーを開くなどし、若い人たちが将来のことを考えたり、将来子育てする上での意識を変えられたりする機会を設けること。
- ・ 最後に、高齢者の方に子育てに協力してもらうこと。子育ての負担を減らすことができ、高齢者にも役割が生まれる。高齢者のボランティア活動の規模を拡大したらよいのではないかと。

(5) まとめ（野村部会長）

- ・ Aグループについて
行事については、若い世代のUターンにつながるような工夫も重要かと思う。結婚観はすぐ変わるものではないが、冊子で紹介するなど、どこの地域でも粘り強くやっていく必要がある。お下がりなどで負担を減らす提案もエコで良い。行政のホームページを見やすくリニューアルすることは、小さなことかもしれないが、後々良い影響が出てくる取り組みだと思う。
- ・ Bグループについて
子どものことを勉強する機会を設けるということ皆さんの年代で考えることに驚いた。若い世代から、意識を変えていこうという狙いは素晴らしい。PR活動についても、地道な取り組みだが、やり続けると成果を上げられない。情報発信がキーになっている。
- ・ Cグループ
LINEで育児相談についても、双方向の情報発信がキーだと思う。育児をする上で、相談をいつでも誰でも気軽に受け付けられることは、大きなサポートになる。子育てのしやすい企業のランキングを作るとは、就職を希望する若い世代と企業・会社のそれぞれにとってメリットが大きい。高齢者の方に協力してもらうことについては、北海道においても、せわすきせわやき隊などの高齢者によるボランティアグループはあるものの、人生100年時代で長生きする方が多くなってきている一方で、地域の孤立という部分も社会問題になっているので、子育てに関するサポート隊の組織を全道的に広く推進すると良い手立ての一つになると思う。
- ・ 3グループ全てに共通する部分としては、PR、情報発信がキーワードとなっている。
- ・ 年明け2月に開催予定の北海道子どもの未来づくり審議会で、提言書を取りまとめ、知事に提出をする。知事への提言は、私と副部会長の元岡大和委員が代表し、知事に提言書を渡す予定である。皆さんには2回にわたり、長時間討議いただき、部会長として、改めてお礼を申し上げる。

(6) 閉会挨拶（子ども未来推進局 花岡局長）